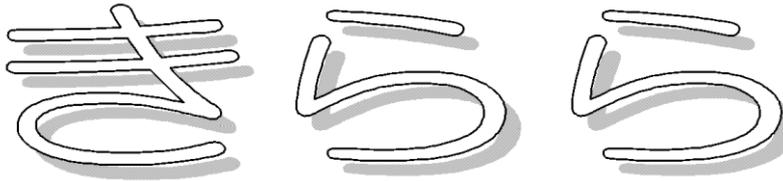




蕪山南小学校  
学校だより

学校教育目標:ともに高め合う きららの子



「地域に信頼  
され、地域  
とともにある  
学校」を  
めざして

令和7年7月 発行 第4号

## 初めての防災キャンプ ～よく考え、未来を豊かに生きる力を育む～

初めてとなる防災キャンプを実施いたしました。ご協力いただいた伊豆の国市危機管理課・チーム防災いずのくに・きらら応援団・保護者の皆様には、心より感謝申し上げます。子供たちの笑顔と真剣な眼差し、そして何よりも大きな成長を実感することができた、実り多い二日間となったことをうれしく思います。

キャンプ中、子供たちは様々な「もしも～」の状況を想定し、なかまと話し合ったり判断したりして活動する場面がいくつもありました。例えば、水やお湯だけで満足できる食事づくりに挑戦したり、夜間には真っ暗な校内を一つの懐中電灯を頼りに指定された場所へ移動する訓練も行ったりしました。どんな状況下におかれても、なかまが一緒にいてくれる心強さを感じることができたのではないのでしょうか。いつもとは違う環境で、どうすれば安全に行動し安心した生活がおくれるかを真剣に考えていました。



避難所運営ゲーム (HUG) では、刻々と変化する避難所の状況をリアルに再現します。高齢者、乳幼児連れ、外国人、観光客、体調不良者、障害者、ペット同伴者等、多様な避難者が次々と避難所を訪れ、その方々をどこに受け入れていくかを考えていきます。大雨等の中では、外で待ってもらうわけにはいきません。瞬時の判断が求められます。それぞれ異なるニーズを抱えていたり、また、食料や水、毛布といった物資には限りがあったりする中の判断ですが正解はありません。ある人を優先すると誰かが犠牲になることなどを大人に指摘されながら子供たちなりの答えを出していました。

このことは学校の生活にも置き換えて考えることができます。学級内にも様々な状況がかかえていたり、いろいろな考えをもったりしている人がいます。そのような中で誰もが安心して生活できるようにするために、個々のニーズに寄り添い、それぞれの立場を尊重することの重要性を再認識できたのではないのでしょうか。

今回の防災キャンプでは、単に災害への備えを学ぶだけでなく、地域の一員として将来にわたって活躍できる人材を育むことを目標にしました。消火訓練や AED の使い方は、いざという時に自分だけでなく、誰かの命を救うことができる大切なスキルです。今実際の場では使えなくても、近い将来使うことを躊躇しない大人に成長していることを期待しています。今回の経験が、子供たちが将来、地域社会の一員として、自ら考え、行動し、支え合える存在となるための第一歩となることを願っています。これからも、子供たちが地域の中でたくましく成長し、未来を生き抜く力を育めるよう、さまざまな教育活動に取り組んでまいります。地域・保護者の皆様、今後とも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。